

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071000428		
法人名	社会福祉法人 桜花会		
事業所名	ライフケア大手門	ユニット名	
所在地	福岡県福岡市中央区大手門2丁目5番15号		
自己評価作成日	平成25年7月25日	評価結果市町村受理日	平成25年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階		
訪問調査日	平成25年8月7日	評価確定日	平成25年9月23日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様には特別な日課を設けず、出来るだけお一人お一人に沿った生活環境を整え、外出や家事活動を行って頂きながらQ. O. Lの向上に努めています。又、御本人の言葉をもとに記録を作成し、心情を探りながらその後のケアに活かしていきます。ご家族へも1ヶ月の御様子をお手紙でお伝えし、日頃より情報の共有を図っています。昨年度は職員の入れ替わりもありましたが、新入職者には育成ノートを配布し、先輩職員からのアドバイス、ケアに関する疑問点等の意見交換を一人立ちが出来るまで行いました。各専門職からの内部研修も充実させ、少しでも不安やストレスを軽減していけるよう努めております。又、外部研修への参加も積極的に行いスキルアップを目指していきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福岡市の中心部にあるライフケア大手門は複合施設の6階にあり、同階のベランダでは、ご利用者が育てている野菜が元気に育ち、夏には花火大会を楽しむ事ができる。施設行事である“どんたく祭り”では、職員の提案でダンスを採り入れ、真面目さとユニークさを持ち合わせた職員の良さを発揮する事ができた。主任とリーダーを中心に職員のチームワークは着実に良くなっており、職員のアイデアは更に広がっている。“ご本人のお気持ち”が動く企画”を常に考え、甘いものがお好きな方には家族と一緒に“ワッフル”を食べに行く機会も作られている。様々な取り組みの背景には、施設長の“ご利用者個々に対する尊厳”の姿勢が流れており、老いを知る事やご本人の“心のひだ”まで心を配る事を含めて、ご本人の心身に寄り添う事の大切さを職員に伝え続けている。今後は、ご本人や家族と一緒に“生と死”に関する話し合いを深め、終末期ケアなどの勉強も続けていく予定にされている。“自分が新しい職員のお手本になれるように”と常に向上心を持って仕事をされており、“優しい笑顔と暖かい手を持って”日々のケアが続けられているホームである。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4項目の理念を朝礼時に読み上げ、スタッフルームにも掲示し共有を図っている。また、カンファレンス等で理解を深めながら実践に繋げている。	個人の尊厳を重んじ、ご本人の生活歴や日課等を大切に把握し、日々の生活に活かすように努めている。傾聴ボランティアの方の協力も頂きながら、ご利用者の笑顔を引き出す取り組みを続けている。主任とリーダーを中心にチームワークも強くなっており、24年から言葉マナー月間も導入し、職員全員が言葉遣いへの意識を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の開催の呼びかけや、施設内の交流スペースを利用した地域との交流、地域活動への入居者の参加を通じて交流を深めている。	校区主催の夏祭りや保育園の運動会に参加したり、“地域ふれあいサロン”でフワアアレンジメントなどを楽しんでいる。ご利用者も一緒に大手門の商店街に食材の買い出しに行き、地域の方とご挨拶をされている。毎月、施設に保育園児の慰問があり、押し花ボランティアの方なども来て下さり、ご利用者の楽しみの1つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症ケアの勉強会を行う等している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況やサービス内容等を報告し、意見交換を行いながらサービスの向上に努めている。	ご利用者も気軽に参加できる雰囲気作りに努め、年間の議題内容を事前に参加者にお知らせする取り組みも続けている。他県のGH火災の後は“火災から高齢者を守る”と言うDVDを投影し、意見交換が行われた。参加者の方からの意見やアイデア、地域情報なども頂き、有意義な会議となっている。	今後も市の方に会議の呼びかけを続けていく予定であり、議事録の郵送を継続すると共に、ホームでの生活状況や取り組みを理解して頂ければと考えている。商店街の方にもお声かけし、行事の時に一緒に集う機会等も作り、地域交流を増やしていく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加の呼びかけをその都度行い、御協力を頂く中で実情を理解して頂けるよう努めている。	24年度までは“ふれあい相談員”の訪問も行われていた。地域包括の方が会議に参加して下さり、地域高齢者の抱える課題や地域の実情等の情報交換が行われている。年に5～6回行われるGH協議会の勉強会には職員が参加し、ホームの状況を報告しており、認定の更新時などは事務長が市役所に出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については内部研修においても学ぶ機会を設けている。また、身体拘束廃止委員会を設置し、やむを得ず拘束に当たるケアを行う場合にはその都度検討するよう努めている。	ご本人の思いに寄り添うケアを続けており、スピーチロックにも配慮している。構造上、エレベーターは暗証番号を押して開けるシステムで、1階のラウンジや散歩等の希望がある場合には職員が付き添い、エレベーター操作をしている。“自由に外出できる”と言う気持ちで生活して頂けるよう、ご利用者の立場に立った“外出支援”が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は利用されている入居者様もいらっしゃる為、カンファレンスや研修において学ぶ機会を設けている。ご家族へも会議や掲示等で制度の紹介を行っている。	会議の時に地域包括の方から制度の説明をして頂き、欠席者には議事録の郵送が行われた。ホームにはパンフレットを準備し、ご利用者個々の制度の必要性の検討は主任が行っている。制度を利用している方もおられ、今後は入居時にも制度の説明を行うと共に、25年度も制度に関する内部研修を行う予定にしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約等の問題以外でも出来るだけ相談の機会を設け、説明を行い、理解と納得をして頂けるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より入居者様、ご家族のご意見を伺える体制づくりに努め、記録にとり、周知、運営に反映させている。	毎月のお手紙や電話で暮らしぶりを家族に報告し、面会時などに意見を伺っている。敬老会と忘年会の後に家族会を行い、要望が聞けた場合は、できるだけ実現できるように努めている。入浴回数などの要望も頂き、清潔保持の視点と共に、ご本人の入浴への意向も大切にしながら、家族と検討を続けている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、主任等との面談の機会を設け、カンファレンスにおいても話し合いを行いながら反映させていく体制をとっている。	新しい職員が増え、主任とリーダーを中心に検討を行い、マニュアルと指導育成ノートが作成された。主任は“職員個々の意見を大切にしたい”と考え、カンファレンスでも全員の意見が出せるようにしている。施設行事の“どんたく祭り”での出し物の意見も積極的にあがり、25年度はダンスを行い、ご利用者も喜んで下さった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、その後に面談を行う等、向上心を持って働けるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集、採用にあたっては制限は設けていない。休暇については勤務表作成前に希望を聞いたり、面談等において配置転換の希望があれば考慮したりしている。	面接の際には、年齢や性別、資格、経験の有無等による制限はなく、笑顔や話し方等の第一印象を大切にしている。職員は年3回以上、外部研修に参加し、プライベートの目標も立て、日々の実践に繋げている。優しい職員が多く、料理上手などの良い所を引き出しながら、“まじめさ”と言う長所も活かしたチームケアを続けている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎年の研修計画に位置付け、学習や啓発の機会を確保している。	入職時の初日は施設長自らが研修を行い、ご利用者の1日1日を大切にすることや、高齢者の生き方から学び、職員個々に成長して欲しい事などが伝えられている。法人全体の内部研修でも、年に1～2回は人権に関する研修が行われ、外部研修でも他施設職員との勉強を深め、意識を高める機会になっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。年間目標にも外部研修参加各自2回以上と掲げている。また、資格取得に向けても配慮しており、講習会等に積極的に参加してもらおうようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、勉強会や相互訪問活動を行い、交流を通じてサービスの向上に繋がるよう努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階においては特に留意し、入居者様の不安、要望等を伺いながら把握し、スタッフ間でも共有しながら対応に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との関係づくりにおいても同様に出るだけお話しをする機会を設け、状況を把握できるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を行いながら多方面からのアプローチを行い、対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様から家事のアドバイスを受けたり、一緒に唄ったりテレビを視たりと、共に生活している関係として、一緒に喜怒哀楽を味わい、支えあえる関係づくりに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけご家族に参加して頂けるような催しを企画し、協力して頂くようにしている。また、お手紙や電話等でもこまかな情報をお伝えし、現状をお伝えしながら、共に支えていく関係を築いている。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、入居者様の趣味活動や習慣、馴染みの人達との交流の機会が保たれるよう支援している。	センター方式なども活用し、馴染みの方や行きたい場所を把握している。家族と自宅の草むしりをされたり、以前の仕事場やお墓参り等に行かされている。友人が尋ねて来られる時もあり、団欒されている。お若い頃にご主人と映画に行かれていたとの事で、映画館で映画を鑑賞して頂いたり、天神でのお買い物も楽しまれた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係は把握している。個々の時間も大切にしながら催し等を通し、関わり合いの時間も確保出来るよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設行事などの連絡を行い、参加して頂く場合もある。また、ご家族が他の事業所を利用されているケースもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス等において職員全員で情報提供を行い、思いや意向についても確認しながら本人本位で検討、支援している。	日々の生活の中で、「～が食べたい」「～へ行きたい」「帰りたい」等の意向を伺っている。ご本人の寂しさにも寄り添い、思いの把握に努めている。把握できた内容は担当者がセンター方式等に記入し、日々の個別記録にも、ご本人のセリフや行動、行動の原因、ケア内容などを残し、介護計画に活かすようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際に御本人の生活歴を御本人、ご家族から伺い、把握した上で接するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況に合わせる為、状態、現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、御本人、ご家族、スタッフ、訪問看護等、関係者と共に話し合いながら、現状に即した内容となるよう努めている。	ご本人の生活歴や身体状況、ご本人の気になる事も含めて丁寧に把握している。計画には“お好きなDVDを観賞する”“百人一首”“お手玉”などの趣味と共に、買い物やふれあいサロン等へ出かける支援も盛り込まれている。3表も作成し、入浴支援方法や入浴時の留意点などの個別援助計画も記載されている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に御本人が仰ったこと、行ったこと等を記録し、それを活用しながら、要望、気づきに繋げ、計画の見直しや、日々の活動に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせて出来る限り御本人、ご家族の要望に応えられるような体制作りをしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御本人の意向、必要性に応じて対応、支援をしていく体制にしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、ご家族の要望に沿う形で医療を受けて頂いている。医療関係者との関係も合わせ支援している。	職員全員、日々の体調を細やかに観察している。毎日、系列施設の看護師がホームに来て下さり、ご利用者の健康チェックが行われている。歯科の往診もあり、訪問看護師との連携も取られている。家族の都合もあり、ほぼ職員が通院介助しており、受診結果は電話で報告し、毎月お送りする手紙にも記載している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師や協力病院の訪問看護と連携しながら健康管理に努め、必要な受診は迅速に行えるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や病院関係者との情報交換、相談に努め、出来るだけ早期退院が出来るよう支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の状況に合わせて、ご家族との話し合いが出来るようにしている。その時々状況に合わせて方針の共有を図っている。	医療行為が必要となった場合の“意思確認書”を基に、「24時間体制の往診がないため、最期は病院(さくら病院)に転院になる事」を入居時に説明し、同意を頂いている。体調によってホームでの入浴が困難な場合は、相談の上で特養の申込みも行われている。状態変化時には主治医との連携に努め、家族面談が頻回に行われている。この1年で1名の終末期ケアが行われ、転院ぎりぎりまで誠心誠意の対応をさせて頂いた。	看取りについての経験が少ない職員が増えており、急変時の対応も含めて職員間で確認し合う予定にしている。ご利用者の平均年齢も高くなっており、平穩に過ごされている時期に、ご本人と家族も一緒に「いつか来る死」について話し合う機会を増やし、最期の時を大切にしていきたいと考えられている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスや研修会を通じ、急変時の対応や事故発生時の対応を学び実践に活かしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度より、施設全体の避難訓練に加え、ホーム内においても年2回の訓練を実施予定である。全職員が訓練において緊急時に備えると共に会議を通じ地域との協力体制も築きつつある。	同階の屋上が避難場所であり、災害対策のマニュアルも作られている。24年10月には、ご利用者と家族、地域の方、市の職員も一緒に夜間想定訓練が行われ、消防署の方も点検のために毎年来て下さり、アドバイスを頂いている。ホームとして飲料水20L、食材2日分(厨房にも2日分)の食料が確保され、蓄電体制も整えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に寄り添い、目線に合わせた姿勢や優しい静かなトーンの声掛け等、プライバシーにも配慮した丁寧な対応を心掛け実践している。	日々の記録や議事録は個人名での記入を避け、エレベーター内での職員同士の会話(個人情報等)も慎むようにしている。“言葉マナー月間”を設け、言葉遣いの振り返りも行われている。排泄の失敗時にも、自尊心を傷つけない声かけに努めているが、時に難聴の方に大きな声になる時があり、主任が注意をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた対応を行い、思いを引き出すよう意識的に働きかけ、出来る限り自己決定が行えるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の様子や心身の状況を観ながら、その時々に合わせて対応を心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前からの習慣を大事にし、それに合わせた対応を心掛けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を把握し、誕生日にお好きな物を召し上げて頂く等考慮している。準備や片付けは能力に応じ、出来る範囲でお願いしている。年に数回バイキングや外食の機会を設けている。	朝食と夕食は施設厨房で作られている。昼食はホームで作り、ご利用者もごぼうの笹がき等をして下さり、花壇で収穫したジャガイモや大根なども使い、旬の料理が作られている。苦手な物も食材に上手く混ぜ込み、美味しく食べて頂く工夫を続けている。嚥下状態に応じてトミをつけ、職員も見守りしながら、一緒に食事をされている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が確保出来るよう出来るだけこまめに摂って頂く等、個別で対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけ御本人の生活ペースに合わせてながら支援していくと共に義歯の消毒、歯科往診等、必要に応じたケアをしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行いながら、個々の排泄パターンに合わせ、出来るだけトイレで排泄して頂くよう努めている。	排泄が自立している方もおられる。誘導が必要な方には、さりげなくアイコンタクトで意思確認と誘導を行い、尿臭にも気を付け、リハビリパンツ交換のタイミングの配慮も続けている。排泄中はトイレの外で見守りを行いながら、転倒予防にも努めている。意思疎通が困難な方の排泄サインを見逃さず、失禁を減らす取り組みを続けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては個々に合わせた対応を行い、出来るだけ自然排便となるよう食物繊維や乳製品を多く摂ってもらったり、身体を動かしてもらおう等取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に毎日行い、個々の希望、体調、タイミングをみて時間を決めずに行っている。	看護師のアドバイスもあり、入浴時の留意点を職員間で共有している。入浴を拒まれる時は無理強いせず、好まれる時間を見計らい、声かけしている。浴槽の深さもあり、体調に応じて2人介助も行われ、マットの購入や手すりの増設も行われた。入浴時はゆっくりと会話を楽しみ、季節に応じて菖蒲湯や柚子風呂等も楽しまれている。	午前中に「頭を洗いたい」という希望が聞かれる時がある。今後も人員体制を整えながら、なるべく希望が叶えられる取り組みを続けると共に、入浴以外のケア内容も含め、職員間で検討していく予定である。
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせ、就寝、起床と特別時間を決めずに対応している。体力や夜間の様子に応じ午睡の時間も設けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬、状態を把握し、看護師、医師と連携を図りながら服薬支援を行っている。排便コントロールについてはスタッフ間で検討し調整している。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた役割(野菜作り、調理手伝い等)を設け、生活に少しでも張りをもって頂くよう努めている。気分転換に1階でお茶を飲んだり、屋上を散歩したり、買物にお連れしたりしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	カンファレンス等にて検討を行い、買物や食事等少しでも多く外出の機会をもてるよう努めている。ボランティアの方にも協力頂いている。	ベランダで夏の花火大会を見る事もでき、野菜も育てている。近くのスーパーや公園等への散歩も楽しまれ、ご本人のお気持ちに動くような企画を職員が考え、映画館やレストラン、花見にも出かけている。買い物の時には、ご主人のお供え物等も購入されている。家族と一緒にデパートやハウステンボス等に行かれる方もおられ、家族との外出時には介助の留意点をお伝えし、楽しい外出になるように配慮している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人の意向も踏まえ、ご家族と相談の上対応している。全員は難しいが所持している方については、買物の際御自分で管理して頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は投函のお手伝い等している。電話については掛けたいときに対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場として適したものとなるよう努めている。その時々々の写真や季節の花、季節に合わせた飾り付け等工夫している。室温管理や清掃に努めている。	リビングにはテーブルとソファがあり、玄関横にもソファが置かれている。リビングは広く、移動に時間を要する方もおられるが、職員が付き添い、少しでも歩く機会を増やしている。廊下の壁には職員手作りの作品や写真を飾り、ご利用者が季節の花を飾られている。リビングのテーブルには複数の雑誌を置き、皆さんと一緒に読みながら、外出場所の会話作りに活用している。	日頃から職員全員が環境面の改善箇所を把握する意識を持ちたいと考えている。節電による明るさの状況や、脱衣所の温湿度の調整具合も含めたりスクママネジメントの検討を続け、環境面のマニュアル作りにも取り組まれていく予定にしている。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が自由に過ごせたり、気の合う方同士で自由に過ごせるベンチを配置する等工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れたものを持ち込んで頂き、御自宅での生活の延長と考えて頂くよう対応している。	居室の入り口には手作りの名札を飾っている。ご本人手作りの木彫りの家具や絵画、お誕生日に職員が作成したメッセージボードも飾られている。ご仏壇も置かれ、毎朝、職員がお茶を準備し、ご本人に供えて頂いている。床に座れるようにマットを敷き、座イスなどに座って編み物などを楽しまれている方もおられる。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手摺りを設置し、テーブル等の高さも配慮している。カウンターにお茶やお箸等を準備し、出来るだけ御自分で用意して頂いている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				